

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
大阪アミューズメントメディア専門学校		平成28年4月1日		森 憲司		〒 532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3丁目12番19号 (住所) 06-6885-6010 (電話)																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人吉田学園		平成28年2月2日		吉田 徹		〒 532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3丁目12番19号 (住所) 06-6885-6010 (電話)																															
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	文化・教養専門課程		アニメーション学科		平成29(2017)年度	-	-																														
学科の目的	アニメーション制作を学び、アニメーター/演出・監督としてアニメーション業界で活躍できる知識と技能を修得する。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	アニメーション業界へ就職するために重要なアニメーション制作の実践に力点を置き、アニメーター/演出・監督として業界へ就職するための指導を行う。																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																													
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,770 単位時間 単位	90 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,860 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率																																
80人	90人	0人		0%	10%																																
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 41 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 34 人</p> <p>■就職者数(E) : 34 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 4 人</p> <p>■就職率(E/D) : 100 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 12 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 83 %</p> <p>■進学者数 : 0 人</p> <p>■その他</p> <p>アルバイトなど 7名</p> <p>(令和 5 年度卒業者に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等</p> <p>(令和5年度卒業生)</p> <p>【アニメーション業界】</p> <p>株式会社トムス・エンタテインメント、株式会社プロダクション・アイジー、株式会社MAPPA、株式会社タツノコプロ、株式会社トリガー、株式会社バンダイナムコフィルムワークス、株式会社グラフィニカ、株式会社スタジオディーン、株式会社バグフィルム、株式会社スタジオウォルン、株式会社 GoHands、株式会社サテライト、株式会社エイトビット</p>																																				
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																				
当該学科のホームページURL	https://www.amg.ac.jp/animation/																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,770 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,770 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	1,770 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,770 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	1,770 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																				
うち必修授業時数	1,770 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																				
総単位数	単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																				
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																				
うち必修単位数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>1人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人	計	3人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人																																				
計	3人																																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

アニメーション学科は、技術の進展と制作手法の多様化が進むアニメ業界に対応するため、現役のアニメーターを講師として招聘し、最新の技術や制作手法を教育課程に反映することを基本方針としている。具体的には、伝統的なアニメーション技術から最新のデジタルアニメーションツールまで、業界のニーズに合わせて教育課程を随時更新している。また、実際のアニメ作品制作を重視し、実践的かつクリエイティブな制作技術の習得を目指す教育課程を構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

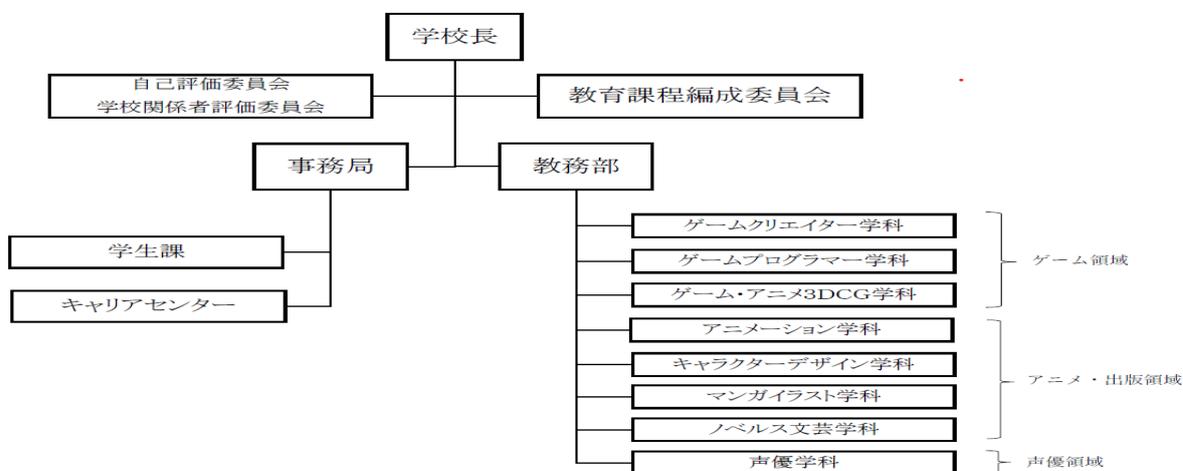
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会では、現役のアニメ業界で開発を行う専門家を委員として招聘し、業界との緊密な連携を図ることで、最新の業界状況を反映した実践的な教育方針を策定している。これにより、即戦力としてアニメ業界で活躍できる人材の育成を目指している。

「教育課程編成委員会」は「自己評価委員会」「学校関係者評価委員会」と共に、学校長が統括をする。

教育課程に関する意思決定については、以下の通りと定める。

- ・教育課程編成委員会は学科ごとに選出・委託された企業等委員と、業界団体等委員、教務部長・各学科担当で構成される。
- ・委員会で各学科のカリキュラムに対し産業界側から出た評価と提言を意見を参考に、教務部で教育課程への反映が検討される。
- ・最終的に学校長の許可を経て教育課程を決定する。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年8月28日現在

名前	所属	任期	種別
香川 悟	一般社団法人デジタルエンターテインメントクリエイター協会 理事	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	①
北川 隆一	関西俳優協議会 事務局長	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	①
生島 久也	株式会社サムライプラン 代表取締役副社長	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	③
島田 健人	株式会社クロスプラススタジオ キャラクターモデラー	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	③

山本 利彦	株式会社ディープラス 代表取締役	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	③
中野 裕紀	株式会社EMTスクエアード アニメーター	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	③
武山 紀弥	有限会社メルヘンズ 取締役社長	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	③
松田 昌子	株式会社U-NEXT アニメ・ブック事業本部 マンガ編集事業長	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	③
谷口 健太郎	株式会社 チクタク シナリオライター	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	③
内海 賢太郎	株式会社賢プロダクション 代表取締役	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	③
森 憲司	大阪アミューズメントメディア専門学校 学校長	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	—
下間 正巳	大阪アミューズメントメディア専門学校 教務部長	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	—
中島 正貴	大阪アミューズメントメディア専門学校 教務部長	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	—
脇 功一	大阪アミューズメントメディア専門学校 教務副部長	令和5年3月1日～令和7年2月28日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年3月1日 17:30～19:30□

第2回 令和5年8月2日 17:30～18:30□

第3回 令和5年12月6日 17:30～19:00□

第4回 令和6年8月28日 17:30～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

アニメーション制作における、生成AIの活用状況と、教育課程への反映について委員にご意見を伺った。

- ・活用すべき状況や場面が、徐々に整理されてきている。
- ・デザインアイデアなどのバリエーションを検討するなど、生成AIの画像をそのまま使わない使用法が多い。
- ・使ってはいけない場面も整理が進んでいる
- ・法的なリスク、SNSなどでの炎上リスクなどを勘案する必要がある

生成AIについては直接的な使用方法ではなく、社会の受容状況を含めリテラシー教育の一環として、教育課程への反映を検討していくこととなった。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実社会で即戦力となる人材へと成長するため、企業等と連携した実習・演習を積極的に実施し、対象とする業界・職業における実践的な能力育成を目指す。これにより、業界の標準技術や最新技術に触れ、実践的なスキルを習得することで、卒業後の円滑な社会への移行を支援するとともに、業界が求める人材育成に貢献する。

企業との連携は、企業からの講師や指導担当者の派遣、共同指導、企業提供の教材を用いた授業など、多様な形式で実施する。実施に際しては、本校の学科担当者が企業の担当者と連携して行う。

実施後は、学科担当者および教育課程編成委員会において内容を検証し、改善に努め、業界標準の価値基準を維持・更新する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科では、企業から派遣された講師の監修指導を受け、学科担当者と企業が連携して実習・演習にあたる。

① 実習・演習内容の決定

企業から派遣された講師が、業界基準として求められる内容を監修し、学科担当者と連携して実習・演習のゴールを設定する。

② 実習・演習実施

実習・演習は教室内で実施される。企業から派遣された講師が継続的にアドバイスを提供しながら、学科担当者と連携して実習・演習を進める。

③ 評価

学修成果の発表を行い、企業から派遣された講師が作品の講評および評価を行う。

企業から派遣された講師の評価を元に、学科担当者が出席率など総合的な成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
デジタル技術	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	アニメーション制作現場で使用するソフトウェアの基本操作およびアニメーション制作における仕上げ・撮影作業を学習し習得する。	有限会社スタジオ・オーズ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学校法人吉田学園教員研修規程第1条に定める通り、企業等と連携して、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能並びに、指導力等の修得・向上を目的とし、専攻分野における実務について研修を行うことで、最新の業界の事情やニーズを把握し、教育に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「ChatGPTをビジネスで活かす方法とは？生成AIのエキスパートが1から教えます！」	連携企業等:	株式会社neoAI 株式会社ObotAI
期間:	令和5年6月13日	対象:	アニメーション学科、 キャラクターデザイン 学科、マンガイラスト学 科、ノベルス文芸学科 所属の専任教員
内容:	<ul style="list-style-type: none"> ・ChatGPTをビジネスに活かす方法 ・生成AIの活用シーン ・チャットボットでGPT4の活用について ・最新AIについて 		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「教員・講師・インストラクターのためのインストラクショナルデザイン入門」	連携企業等:	株式会社クリーク・アンド・リバー社
------	--------------------------------------	--------	-------------------

期間: 令和5年7月12日

対象: 全教職員

内容 効果的な授業をつくるために必要な、対象者への理解、教える側に必要な能力、課題分析などについて

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: Yostar × COYOTE 3DCG STUDIO ブルーアーカイブ-Blue Archive-モデリング制作 ～こだわりの開発について～

連携企業等: 株式会社クリーク・アンド・リバー社

期間: 令和6年8月29日(木)

対象: アニメーション学科・キャラクターデザイン学科 教職員

内容

- ◆最新のキャラクターモデリング、セットアップ制作の開発について
- ◆キャラクターを作る前準備 適した作り方とキャラの深掘りについて
- ◆キャラクターの顔モデリングについて
- ◆テクスチャ制作時にやっていること
- ◆ブレンドシェイプ作成時のこだわり～いきいきとした表情をつくるには?
- ◆その他

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「LGBTQの理解と対象学生への対応」

連携企業等: 認定NPO法人 虹色ダイバーシティ

期間: 令和6年7月5日

対象: 全教職員

内容

- LGBTQの基礎知識と理解
- ・対象となる学生への対応
- ・大阪市内のLGBTQセンター(プライドセンター)紹介

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の結果を学園の関係者により組織した学校関係者評価委員会に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営の改善を行う。学校評価委員会で得られた評価結果を参考に、学校長以下、事務局、教務部による学校運営施策策定を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1-1. 理念・目的・育成人材像は定められているか 1-1-2. 学校における職業教育の特色は何か 1-1-3. 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

(2) 学校運営	<p>2-1-1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか</p> <p>2-2-1. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</p>
(3) 教育活動	<p>3-1-1. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-1-2. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p> <p>3-1-3. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行なわれているか</p> <p>3-1-4. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</p>
(4) 学修成果	<p>4-1-1. 就職率の向上が図られているか</p> <p>4-2-1. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p> <p>4-2-2. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</p>
(5) 学生支援	<p>5-1-1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p> <p>5-2-1. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</p> <p>5-2-2. 退学率の低減が図られているか</p> <p>5-3-1. 保護者と適切に連携しているか</p>
(6) 教育環境	<p>6-1-1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-1-2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-1-3. 防災に対する体制は整備されているか</p>
(7) 学生の受入れ募集	<p>7-1-1. 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-1-2. 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか</p> <p>7-1-3. 学生納付金は妥当なものとなっているか</p>
(8) 財務	<p>8-1-1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-2-1. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-3-1. 財8務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-4-1. 財務情報公開の体制整備はできているか</p>
(9) 法令等の遵守	<p>9-1-1. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</p> <p>9-1-2. 自己評価結果を公開しているか</p>

(10)社会貢献・地域貢献	10-1-1.学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11)国際交流	11-1-1.留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか 11-1-2.留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか 11-1-3.留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整理されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会にて、本校の教育運営活動を「専修学校における学校評価ガイドライン」の1項目ごとの課題などについて意見を交換している。

①留学生について(国際交流)

委員より積極的な受け入れに期待を寄せる意見をいただいた。
これを受け、全学科で令和6年度生より留学生の募集を開始した。
次年度以降も、留学生受け入れの積極的な施策を行っていく予定である。

②防災体制について(教育環境)

委員より防災体制の充実を求める意見をいただいた。
これを受け、大阪市淀川区と協定を結び津波等の避難対象施設に指定、防災用品や水、食料の備蓄を行うこととなった。

③再進学者の受け入れについて(学生の受入れ募集)

委員より、リスキリングなど再進学者を受け入れる体制を強化すべきとの意見をいただいた。
これを受け令和7年度募集より再進学者向けの入試制度を整備することになった。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
赤松 加枝子	大阪放送株式会社 コンテンツプランニング本部 プランニング部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年) <継続任期> 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
藤井 美樹	株式会社界グラフィックス 人事課	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
山光 咲良	ケンユウオフィス養成所(TALK BACK) 所属声優	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
辻井 安喜	学校法人浪工学園 星翔高等学校 常務理事・校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高校関係
大西 開	株式会社共立メンテナンス 寮事業本部 関西支店 支店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.amg.ac.jp/syllabus/2024/pdf/e_school.pdf

公表時期: 令和6年4月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

文部科学省の公開する「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、本校が設定する項目についてホームページ上で広く一般に公開するものとする。連携および協力する企業等の学校関係者に対してもホームページ上で公開している情報を提供するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の委員会を通じて本校の学校運営の状況について情報を提供するものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、学校の沿革、歴史、特色
(2) 各学科等の教育	シラバス、進級・卒業の要件等
(3) 教職員	教職員数(職名別)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、就職支援等への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置の内容
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.amg.ac.jp/about/> 項目(1)

公表時期: 令和5年10月6日

授業科目等の概要

No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所			企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
1	○			アニメ技法Ⅰ	アニメーションにおける作画・演出についてのあらゆる技法の習得する。	1通	120	4			○	○		○	
2	○			アニメ制作・作画基礎	アニメーション制作の各工程作業を理解し、作画技術の基本の習熟を行う。	1通	120	4			○	○	○		
3	○			デジタル技術	アニメーション制作で使用するソフトウェアの基本操作およびアニメーション制作における仕上げ・撮影作業を習得する。	1通	120	4			○	○		○	○
4	○			作画技術Ⅰ	アニメーション作画におけるキャラクターの動きの基礎から複雑な動作やキャラクターデザインを学習する。	1通	120	4			○	○		○	
5	○			デッサン基礎Ⅰ	アニメーションにおけるあらゆる描画の基礎固めとしてデッサン、スケッチ、クロッキーの習熟を目標とする。	1通	60	2			○	○		○	
6	○			制作実習Ⅰ	チームでのアニメーション制作を実際に行うことでアニメーション制作における総合的な理解を目標とする。	1通	120	4			○	○	○		
7	○			制作実習Ⅱ	チームでのアニメーション制作の通じて、希望職種の技術習得の促進とアニメ制作業務を想定した意思疎通スキルの向上を目指す。	1通	120	4			○	○	○		
8	○			演出基礎	アニメーションにおける『演出』に関する内容について全般的に理解する。	1通	45	3	○			○		○	
9		○		デッサン基礎Ⅱ	アニメーションにおけるあらゆる描画のデッサン、スケッチ、クロッキーの習熟を目標とする。実践的な鉛筆描画課題を展開する。	1通	60	2			○	○		○	
10			○	企画・制作基礎	アニメーション制作における制作進捗管理やスタッフマネジメント、メンバー間コミュニケーションを円滑に行うためのポイントを理解する。	1通	60	2			○	○	○		
11	○			3DCG・デジタル総合	2Dアニメーションにおける3DCG活用を業界内で使用されているソフトウェアで制作し業界での3DCG素材の取り扱いを理解する。	2通	120	4			○	○		○	
12	○			アニメ技法Ⅱ	エフェクト作画表現技術の応用表現の課題実習を行い、エフェクト作画を交えたキャラクターと背景との総合的な画面作りを習得する。	2通	120	4			○	○		○	
13	○			アニメーション総合	これまでに修得したアニメーション制作における技術・方法論を総合的に活用してコンセプト映像作品を完成させる。	2通	120	4			○	○	○		
14	○			作画技術Ⅱ	キャラクター作画におけるより実践的な内容（カットを意識した画面構図、芝居付け・動物作画・キャラクターデザイン）を学習し習得する。	2通	120	4			○	○		○	
15	○			就職指導	就職活動における作品制作や書類選考で必須となる書類作成、職務技能の適性を測られる実技試験の対策を個別に実施、指導を行う。	2通	120	4			○	○	○		
16	○			卒業制作	二年間の集大成といえるアニメーション作品の制作を行い、卒業後就業するための総合力を養う。	2通	120	4			○	○	○		
17	○			演出総合	映像制作、絵コンテ作成を通してアニメーションにおける演出を総合的に学ぶ。	2通	45	3	○			○		○	
18		○		デッサン応用	1年次に修了した内容を意識し、更に高度な表現となる複数モチーフでの画面作り、その描写を行う。また、石膏像の描写なども行う。	2通	120	4			○	○		○	
19			○	企画・制作応用	アニメーション製作におけるプロデューサーの役割を理解する。制作管理における内容を講義形式で解説、学生によるプレゼンやグループディスカッションなどで内容習熟を行う。	2通	120	4			○	○	○	○	
合計						19	科目	68	(1950)	単位	(単位時間)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	卒業該当年度の学年末に卒業認定会議を開催し、62単位以上の取得が認められたものを対象に、学校長が卒業を認定する。	1	2
履修方法:	1年次：必修8科目、選択1科目（内31単位、885単位時間を履修） 2年次：必修7科目、選択1科目（内31単位、885単位時間を履修） あわせて62単位、1,770単位時間が卒業に必要	1	17

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。